

出席者

Y.O.さん：未修コース 2018 年入学 2022 年修了（長期履修）

K.O.さん：既修コース 2020 年入学 2022 年修了

H.M.さん：既修コース 2019 年入学 2021 年修了

K.N.さん：既修コース 2019 年入学 2021 年修了

司会：萬澤陽子准教授

◆まずは、皆さんのプロフィールを簡単にご紹介ください。

Y.O.さん：私が高校卒業後に行った大学は法学部がない大学でした。そして、大学卒業後に海外の大学院に留学したのですが、こちらも法学が専門ではありませんでした。2018 年 4 月に筑波法科大学院に入学したのですが、その直前の 3 月までの 3 年半、ある大学の通信課程の法学部の 3 年次に編入して法学を勉強しました。2018 年 4 月の入学時から長期履修を選択し、4 年後の 2022 年 3 月に修了して、1 回目の受験で合格することができました。

K.O.さん：私は法学部出身です。旧司法試験の受験歴があり、民間企業で働きながら予備試験を受験していました。筑波大学ロースクールには、2020 年 4 月既修コースに入学し、2022 年 3 月に修了しました。私も修了した 2022 年の司法試験に合格しました。

H.M.さん：私も法学部出身です。学部 4 年次に旧司の短答試験を受験したことがあります。そのときはおとなしく 4 年で卒業し、いったん民間企業に就職しました。その後、思うところがあって地元自治体に転職し、現在に至っています。筑波大学ロースクールには 2019 年 4 月に既修コースで入学し、2021 年 3 月に修了しました。司法試験は 2 回目の受験で合格できました。

K.N.さん：私も法学部出身で、また、かなり昔の話ですが旧司法試験の受験歴があり、そのときは論文試験を突破することができませんでした。仕事はずっと企業の法務（＋コンプライアンス）部門で働いています。いくつかの業種を経験しましたが、現在は外資系保険会社の法務・コンプライアンス部門におります。筑波大学ロースクールには 2019 年に既修コースに入学し、2021 年に修了しました。私も、2 回目の受験で合格しました。

◆次に、入学した経緯などお聞かせください。

Y.O.さん：数年前の時点のことですが、それまで 10 年ぐらい外資系の会社の法務・契約関係の部門で働いたところ、その会社の本社や他の国の関係会社で私と同じ業務をしている同僚の多くが弁護士資格を持っていて、インハウスとして働いていました。また、日本企業でも、インハウスの弁護士として企業の法務部等で働く人が増えていると感じていたこと

もあり、将来的なキャリアにおいて弁護士資格を持っておく方が良いかと思ったことがきっかけです。そこで、社会人でも通える法科大学院を探して、筑波に入学しました。

K.O.さん：私は、働きながら予備試験を受験し、合格したタイミングで弁護士にキャリアチェンジする予定でしたが、何度受験しても論文試験の成績がCやD止まりで一向に上がらず、基本的な法的知識をしっかりと身につける必要性を感じてロースクールへの入学を決意しました。経済的な事情から受験のために仕事を辞める予定はなかったため、働きながら通える社会人向けロースクールとして定評のある筑波を選び、結果として修習に行くまで仕事を辞めずに済みました。

H.M.さん：年齢を重ねてきて職業生活では先が見えてきました。このままではいけない、定年のない仕事に就きたいと思って、昔一度だけ受験したことのある旧司法試験を思い起こし、やり残したことがあったと年甲斐もなく新司法試験を目指すようになりました。私も予備試験を受け続けていたのですが、論文試験の壁は高く、このままではいつまで経っても司法試験にたどり着けないと思い、仕事も続けられる夜間ロースクールの筑波を受験し、合格することができました。

K.N.さん：私も、昔受験していた旧司法試験で論文試験を突破できず、あきらめたつもりでしたが、心の底ではまだ法曹になりたいという気持ちが残っていたのかもしれません。ずっと会社で勤務しておりましたが、50代半ばを迎え、第二の人生について考える時期が来たように感じました。私も、生涯続けられる仕事を見つけたいと思っていたところ、法科大学院の入試から苦手な適性試験がなくなったと聞き、仕事しながらでも通える筑波の入試を受けました。このときは、また学校で法律を勉強できたら楽しいだろうなという軽い気持ちで受験しました。昔使っていた旧司法試験の教材はほぼ捨てていたのですが、ごく一部残っていた民訴法のテキストなどを物置から引っ張り出し、懐かしいなと思いながら、少し勉強して入試に臨みました。本当に久しぶりに大学の校舎という場所で法律の論文試験や口述試験を受けたのはとても楽しい経験で、結果も運良く合格をいただくことができました。その後すぐに転職をしたため、入学を1年遅らせようかとも考えましたが、学校にご相談し面談していただいたところ、先生から、走りながら考えましょうと背中を押され、思い切って2019年4月に入学しました。

◆在学中、どのように勉強したか、どのように仕事と学業を両立させたかについてお聞かせください。

Y.O.さん：私は入学したとき、小さな子供が2人いて、配偶者も働いていたこともあり、子育てや家事は分担しなければならないし、会社での仕事もこなさなければならないという

状況でした。ですので、授業の予習・復習、テストの準備等に使える時間はかなり限られており、時間のやりくりに苦労しました。授業中に、疲れてうとうとすることも複数回あったと思います。

そんな状況だったので、各科目について、教材や勉強方法等は、手を広げようとしなくて、各科目の全体像をざっくりと理解して、その中で重要だと思われることに集中して勉強しました。自主ゼミや他の形態のゼミへの参加、先生のところに質問に行くなどは、時間の制約があったことから、他の学生の方と比べたらかなり少なかったと思います。あせりや不安もありましたが、できることに集中して、範囲や方法を絞って短時間勉強することに気持ちを切り替えるようにしました。

そのような時間のない私にとって有用だったのは、ある予備校の講師の講座でした。これが自分に合っていて理解しやすかったので、筑波で履修する科目と同じタイミングで、同じ科目をその予備校の講座で勉強しました。筑波での講義や演習と予備校の教材・講義が相互に補完する形で理解や記憶の助けになり、効率的に勉強できたと思います。

勉強の教材は基本書、演習書、予備校テキスト等さまざまあり、また勉強方法も授業を中心に、予備校を主に、独学する、ゼミや勉強会等で他の学生と一緒に勉強する等、さまざまあると思いますが、全ての人に共通するベストな教材や方法はないかと思うので、自分には何が合っているのかを試行錯誤しながら見つけていく必要があるかと思います。

K.O.さん：私は、ロースクールへの入学が決まった直後に会社と交渉し、経理部門だったため月初の決算締日を除いて定時退社を認めてもらい、授業や期末試験を欠席することはせずに済みました。ただ、振り返れば、細切れの時間しか確保できず、授業の準備や期末試験対策に終始していたように思います。落ち着いて理解を深めるためには、まとまった時間を確保するために何らかの工夫をすべきだったと反省しています。

勉強方法については、私は旧司法試験や予備試験を受験していたので、各科目の全体像はある程度把握していました。ですので、授業の進行に沿って先生方の指定する図書やオリジナルレジュメを読み込み、授業に備えました。

勉強方法に関連して、既修コースで入学し、特に受験歴の長い場合は、過去に身につけた知識が陳腐化している可能性があるのではと気をつけなければならなかったと感じたことがあります。具体的に私は、刑法で、正当防衛の急迫性に関する最新判例を押さえないまま受験に臨み、かなり危ない目に遭いました。このような場合は、未修コースの1年目で履修する科目の知識を何らかの方法でキャッチアップした方が良いでしょう。

また、司法試験の受験対策について、独自に対策する必要がどの程度あるのか分からず不安でしたが、チューターゼミの活用と期末試験対策で乗り切りました。チューターゼミでは司法試験の過去問を題材にすることが多く、大半の科目について、平成25年以降の司法試験過去問の答案を作成しストックすることができました。予備校の答練については利用しませんでした。手書きの答案作成の練習や、論点の網羅性チェックのために、時間があれば受講したかったところです（TKCの直前模試は本番の予行練習を兼ねて利用しました）。

答案の書き方については、チューターゼミで過去問の答案作成を重ねることで、随時見直しをかけていきました。答案の書き方がよく分からないという方は、チューターゼミを有効に活用することで、他の参加者の答案スタイルを学んだり、自分の作成した答案への効果的な指導を受けることが可能と思います。

H.M.さん：私は、18時20分に始まる授業に間に合うようにするため、勤務は通常より30分早い時差出勤としました。2年目はコロナで授業の多くがオンラインになりましたが、生活のリズムを崩さぬよう、ロースクール修了まで時差出勤を続けました。平日は授業に出るのに精一杯で、仕事が休みの土曜日にも授業はありますので、勉強でまとまった時間が取れるのは基本的に土曜日の夜と日曜日になります。もっともチューターゼミの予習と復習、総合演習・期末試験の勉強は期限がありますので平日の夜でも帰宅後にやりました。総合演習のGPAは本試験の可否との相関関係が高いと言われていますが、相関関係にあらがって合格する人は私も含めてそれなりにいますので、行為規範としては総合演習のGPAを少しでも上げる努力をする、評価規範としてはGPAが目標に届かなくてもあきらめずに地道にコツコツやる、ということだと思います。

勉強方法ですが、本学入学後ほどなく同期の仲間に誘われて各科目のチューターゼミに参加しました。仲間に誘われてチューターゼミに参加していなければ、そして何より筑波で勉強仲間と出会うことがなければ、本試験の合格はあり得ませんでした。他方、予備校は、無料のオンライン公開講座を除き、利用しませんでした。

K.N.さん：私も、入学して1年目はコロナ禍の前ですので、すべて通学授業で、当時転職ばかりの会社の上司と同じ部署のメンバーに打ち明けたうえで通学がスタートしました。異業種への転職で、法務・コンプライアンス部門の部門長という立場でもあり、しっかり仕事をして新しい職場で認められなければならないという強いプレッシャーがありました。朝早く出社して仕事をこなし、17時半くらいに会社を出て学校に急ぐという生活はハードなものでした。しかし、既修コースの同級生は、リーダーシップをとってくださる方や、惜しみなく他人をサポートするといった素晴らしい方ばかりで結束しており、みんなで頑張ろうという雰囲気がありました。また、既修コース・未修コース・入学年度を問わず、多くの方々と仲良くなりました。具体的な事例をベースに法的な解決策を考える、先生や仲間と議論するという法科大学院の授業は知的好奇心を刺激するものであり、ハードなスケジュールの中でも学校に行くのはとても楽しかったです。学期末試験の前はつらかったですが、熱心な先生方の指導をいただき、仲間と一緒に頑張り、何とか単位を取っていきました。筑波は大人の学校であり、仕事、家庭などで様々な困難を抱えながら勉強と両立させようと頑張っている人たちの集まりです。ですので、「大変なのは自分だけじゃない」と思え、自然に仲間との連帯感が生まれますし、先生方もそのような学生の状況を踏まえて熱心に指導して下さいます。

2年目になると、コロナ禍が始まり、オンライン主体の授業になりました。オンラインの場合、先生への質問やクラスメイトとの話がしにくくなる等のコミュニケーション上の

問題が考えられますが、1年目で先生やクラスメイトとの人間関係が構築されていたので、問題なかったと思います。

学校の勉強方法については、先生が出される事前課題以外、予習はできませんでした。授業中は疲れていてもできる限り先生の話をよく聞き、授業に集中するようにしました。テキストやレジュメにできるだけメモをとっておき、期末試験の3週間くらい前から、それまでに授業でやった資料を整理し、直前に見直せるように整えていきました。社会人にとっては、とにかく勉強時間は限られますので、司法試験のために手を広げる余裕はないと思いますし、その必要もないと思います。筑波の授業、演習、期末試験で取り上げられる内容で、司法試験に合格できる基礎知識をカバーしていると思いますので、それらの資料を司法試験の前に短時間で見直せるように整理しておくことはとても大事だと思います。また、2年目は授業が空いた日に積極的にチューターゼミや自主ゼミを入れて答案の書き方の練習をする等、先生と仲間と一緒に勉強しました。ある先生から、良い答案を書けるようになるには、基礎知識の存在を前提として、①良い答案を読むこと、②実際に書くこと、③講評を受けること、が重要であり、かつそれに尽きると教わりました。これをチューターゼミや自主ゼミに参加することで実践していきました。いつも熱心に指導いただいた先生方には本当に感謝してもしきれません。

◆ロースクールの提供するものでよかったもの、足りなかったもの等について、もしあれば、お聞かせください。

Y.O.さん：ロースクールの科目の中では、特に演習の科目は試験の準備に役立ちました。先生が事例に関して、学生に質問をしながら話を進めて、最終的に事例に対する一定の回答や方向性を示すことで、事例問題を解く思考過程を垣間見ることができました。また、演習の科目によってですが、事例問題について自分で起案して、それについて先生がコメントを返してくださるものがあり、講義でのやり取りに加えて、自分で解答を組み立てるという訓練になったと思います。

K.O.さん：筑波の先生方が作成するレジュメは非常によくまとまっており、レジュメを読んで理解に不安がある部分を基本書に戻って確認するという方法で、メリハリのついた予習・復習ができました。分かっていたつもりの論点でも、用語の使い方や説明の仕方が誤っていると先生方の反応から明らかに分かりますので、理解の不十分な点に対話を通じて直に体感することができました。これら対話形式によって得られる感覚は、独学や予備校の授業にはなかったものですので、ロースクールに入学して本当に良かったと感じました。

H.M.さん：ロースクールの提供するものでよかったものは、授業レジュメ、総合演習と期末試験の問題・解説・講評・返却答案です。授業レジュメは知識を整理して定着させる上で大変有用です。総合演習と期末試験の問題はどれも自分が一生懸命取り組んだ教材なので、しっかり復習すれば本番でも功を奏し、合格につながります。振り返ってみれば合格に必要な知識はロースクールの授業で十分だと感じています。

ロースクールで足りなかったものは思い当たりませんが、私は授業で指定された基本書は通読まではできず、重要と思われる箇所を重点的に拾い読みしていました。夜間ロースクール生は分厚い基本書を通読する時間がなかなか取れないので、基本書は指定ではなく推薦にとどめていただくとありがたいですし、一方で試験対策に有用な演習書の推薦も併せてお願いしたいです。

K.N.さん：繰り返しになりますが、筑波の授業、演習、期末試験で取り上げられる内容で、司法試験に合格できる基礎知識をカバーしていると思います。先生方は、学生が仕事や家庭等との両立で時間がないことを踏まえて、真に重要な内容を、どのようにわかりやすく教えるかという点について常に配慮されていると思いますし、それがレジュメや授業の進め方等に表れていると思います。ですので、授業等を何度も復習して基礎知識を定着させ、チューターゼミや自主ゼミに参加して答案の書き方を身に付けるという方法は、非常に合理的で、とても良かったと思います。また、筑波の先生はいつも本当に熱心に教えてくださり、質問にも丁寧に答えていただく等、非常にありがたかったです。

◆ロースクール修了後から本試験まで、どのように過ごされたかお話しいただけますか。

Y.O.さん：最終年度の4年目の12月で全ての単位を取り終わってから、試験まで約5か月弱の期間がありました。その間、私は、公法2科目、民事系3科目は個別チューターゼミで過去問を起案して、事例問題の答え方、書き方等をチューターの先生にご指導いただきました。またチューターの先生のアドバイスに従って、勉強時間の3分の1程度を短答対策に費やしました。チューターゼミと短答対策の勉強以外では、手元の予備校の教材の中でも短い時間で復習できるものに絞って、何度か読み返しました。複数の教材を一回見直すのではなく、教材を絞って同じものを繰り返したのが良かったのだと思います。

また、試験当日に対応するための準備として、予備校の答練を1月から3月に受講しました。各科目2度ずつ、教室で時間内に初見の問題を、試験用六法を使って答える練習をしました。また3月には予備校の模試を、本番の会場と同じ場所と同じスケジュールで受験して、本番に備えました。

振り返っての結果論にはなりますが、インプットやゼミ等のアウトプットはもちろん重要とは思いますが、答練や模試等で教室や試験会場で初見の問題を焦りながら解く、記憶があいまいな分野の問題をなんとか答えるという練習をしたのが本番に役立ったと思います。

K.O.さん：私は、チューターゼミを通じてストックした司法試験過去問の答案を何度も見直していました。また、授業で配布されたレジュメを見直ししながら、本番直前の1週間で見直したいレジュメを絞り込んでいきました。この作業を繰り返す過程で、知識の再確認を進めていきました。答案を手書きする訓練も行いたかったのですが、時間が取れないのを言い訳に十分に実施できないまま本番を迎えました。仲間を募って取り組むなど、強制の仕組みを

作れると良かったと思います。また、予備試験の過去問で出題された論点や問題意識もチェックしておきたかったのですが、後回しにしたまま本番を迎えてしまいました。会社には事前に交渉し、年度決算の作業が片付いた4月20日頃から長期休暇を取得して、頭を完全に試験モードに切り替えて5月11日からの本番に臨むことができました。

H.M.さん：私は合格するまでに本試験を2回受けたので、1回目と2回目を総合して申し上げますと、過去問の答案構成をして出題趣旨／採点実感と照合したり、合格者答案を写経（書き写し）したり、各科目1冊ずつ演習書を選んで基本書代わりに通読したり、各科目の重要な定義や規範を暗記カードに書いて記憶したり、判例百選に載っているような重要判例の拾い読みをしたりしていました。短答対策は直前期に数年分を1回ずつ解いただけでした。

勉強の素材として過去問は超重要と思います。答案の書き方は合格者答案から学ぶことができます。暗記カードは100円ショップで調達しましたが、暗記カードに書いた各科目の重要な定義や規範は直前期に声に出して読みながら短期記憶に努めました。また科目の特性にもよりますが、本試験では判例の射程が問われることがあり、これに備えるため、重要判例は判旨だけでなく事案の概要や解説も読むように努めました。

私の場合、短答の勉強のウエイトが低いですが、短答は予備試験で何度も経験していたので、論文の方に多くの時間を充てたいと思ったためです。実際には本試験の短答は最終日に実施され、失敗すれば論文を採点してもらえない本当にこわい試験ですので、もっとしっかり対策しておくべきでした。特に、多くの受験生が正解する問題についてはできるまで繰り返して解いておいた方がよかったと思いました。

また、私の場合、模擬試験は受けなかったもので、1回目の本試験が1年後の2回目の本試験の模試になってしまいました。やはり、どこかの模試を受けてから本番に臨んだ方が確実と思います。

あと、力をつけようと思うと、ついつい、いろいろな教材に目移りして手を広げたくなるのが人情です。しかし、Y.O.さんもおっしゃるように、自分が選んだ一つの教材を繰り返しやった方が理解を深め、知識を定着させる上で有利で合格への近道だと思います。

K.N.さん：私も、予備校は利用せず、筑波の授業、チューターゼミ、自主ゼミ、エクステンション講座等を活用して試験勉強を行いましたので、ロースクール修了後は、筑波の授業のレジュメ、期末試験の答案、ゼミの答案、エクステンション講座の答案等を復習しました。

また、論点については、授業のレジュメや予備校の論点集等に授業で習ったことを手書きで加筆して、暗記しました。暗記は苦痛ではありますが、本試験場で少しでも多く事案の当てはめ等に時間を使えるよう、定義や論点は暗記してすぐにアウトプットできるようにしておく必要があります。短答については、論文1科目分に相当する重みがありますので、できればここで点を稼いで論文を少しでも楽にしたいところです。具体的には、直近10年分

くらいの過去問で全体正答率 60%以上の問題のみを解き、都度条文を確認していきました。また、肢が二つに絞られて最後に「どちらが正解か（より確からしいか）」を判断する際の感覚を研ぎ澄まして決断することを意識して訓練するようにしました。1 回目の受験では論文の刑事系ですごく悪い点を取ってしまい不合格となってしまうので、2 回目の受験ではすごく悪い点（D 評価以下）を取らないことを目標とし、条文の指摘、問題文を使ったあてはめ、誰もが書くであろう基本的な論点を落とさないことを強く意識して勉強しました。

私は筑波の入学前に転職をしたと申し上げましたが、司法試験の 2 回目の受験の半年ほど前にさらに転職をして、仕事がさらに忙しくなりましたので、2 回目の受験の前は本当に勉強時間がとれなくなりました。手持ちの教材の復習を中心とする勉強しかできませんでしたが、むやみに手を広げなかったという意味で結果的には良かったのかもしれませんが。司法試験では、良い点を取ろうとするより、すごく悪い点を取らないようにする意識が重要と思います。特に、司法試験では考えたこともない問題が必ず 1、2 問は出題されると思いますので、そのときに、基本的なことだけ書いてくればよいのだと思って落ち着いて対処し、大崩れしないように（すごく悪い点を取らないように）対応することも大事だと思います。

◆これからのご自身のビジョンと、後輩へのメッセージをお願いします。

Y.O.さん：今年合格した人の多くは 11 月から始まった司法修習に参加したようですが、私は 1 年修習を見送って、次回（2024 年 3 月頃開始のようです）に参加する予定です。自分のキャリアの希望として、弁護士事務所で働くということは考えておらず、今まで通り企業の法務部でインハウスとして働くことを計画しており、修習後は現職に復帰したいと思っています。

これから試験の勉強をされる皆さんは、勉強も大変だと思いますし、精神的にも辛くなることもあるかと思います。仕事をしながら、また家庭や家族、その他個人的な事情で思ったように時間が確保できなくてイライラしたり、周りと比べて焦ったりすることもあるかと思います。ただ、勉強の仕方、個人個人の強みや弱みは異なるので、同じ方法、同じ教材、同じ勉強時間で準備すればよいということはないと思います。自分に合った方法で、長所・得意なところを伸ばすのか、或いは弱点を補強するのか等、戦略的に試験の準備に取り組むのが良いかと思います。

自分の場合ですが、暗記が極端に苦手で、また試験の準備・勉強にかかる時間が制限されるという不得意な点、不利な点がありました。その一方で、各科目の重要項目の概要や大枠を理解すること、また事例のポイントを理解すること、文章を書くことは比較的得意だったと思います。そのため、思い切って過去問を起案することは最小限にして、その分節約した

時間を短答対策や各科目の理解のため教材の復習に当てました。試験に合格するという目標は共通ですが、上位で合格したいのか、ギリギリでも合格さえすればいいのか、また必ず1度で合格することを目指して勉強するのか、2度ぐらい受験してどちらかギリギリで合格することを目指して勉強するのか、対策や準備は各個人でバラバラだと思います。自分に合った方法等を見つけて、ぜひ頑張ってください。

K.O.さん：私は年齢的なこともあり、司法試験に合格してすぐに司法修習に行きます。経験年数がものをいう弁護士の世界で、民間企業での経験がどの程度活かせるのか未知数ではありますが、自分に合った法律事務所を探してみるつもりです。ある程度高めの年齢層の方においては、紹介してもらえそうな転職先を確保しておいたり現職への復帰の交渉をしておくなど、合格後のキャリアプランを固めておくことをお勧めします。もちろん、合格後も修習へ行かず、現職でキャリアアップされる方もいらっしゃいます。そのようなバリエーションに富んだバックグラウンドをお持ちの方々とコネクションを作れるという点は、筑波ロースクールに入学することで得られる大きな財産です。

また、司法試験の合格だけが目標ではないと思います。法的なものの見方や考え方を学ぶことで、困難な課題にぶつかった時でも落ちついて対処できたり、周りから頼りにされたりすることもあると思います。筑波ロースクールには、それだけの価値のある知見を提供してくれる先生方と、素晴らしい仲間が待っているはずです。ぜひ新たな一步を踏み出してください。

H.M.さん：私も年齢が年齢ですが（笑）、仕事の関係から修習は1年見送り、次回77期を目指します。就活については修習中にご縁のあった先生方や先輩方とのつながりを大事にして乗り切りたいと思います。健康の許す限り、何らかの社会貢献を続けていけたらと願っています。

後輩の皆さんへのメッセージですが、まずは本学に入学してみてください、ロースクールでは多くの素晴らしい出会いと知的交流が皆さんを待っています。司法試験は皆さんの夢や目標を実現する上で通過点の一つに過ぎません。しかし、だからこそ、皆さんにはぜひ、自分に合った勉強法で努力を重ねていただき、1年でも早く合格を手にしていただきたいと思います。筑波ロースクールの入試が第一関門です。皆さんのご健闘を心よりお祈りしています。

K.N.さん：私も、現在の会社業務との関係ですぐには司法修習に行けないのですが、今後修習を修了した後は、弁護士として、少しでも社会の役に立てるような活動をしていきたいです。これまでは企業の法務・コンプライアンスの世界で生きてきましたので、これまでの経験を生かしつつ、個人の事件等もやっていければと思います。

在学中あるいは将来入学される皆様には、仕事に一生懸命取り組んだうえで（これによって職場の理解・応援が得られやすくなると思います。）、勉強については、あまり手を広げず、筑波での学習に集中する方が、司法試験という意味でも結局は近道である気がします。また、長丁場ですので、メンタルも含めて体調管理が最重要です。私も筑波での2年

間と司法試験2回の受験を通して、体調面で大変なときもありましたが、そのようなときこそ、無理をせず、一人で悩みを抱え込まず、迷わず休息をとる、先生・学校の仲間・友達等と話をするといったことで、バランスをとって、休みながらでもよいですから、少しずつ前へ進んでいただければと思います。自分の思うようにいかないのが人生ですので、そのようなものと楽に考えることも大事です。これから筑波に入学、卒業されるみなさんと、いつか弁護士の仕事等でお目にかかれたり、さらには一緒に仕事できるような機会が来たら、とても幸せですね。そのようなときが来ることをとても楽しみにしています。